

10月

- 3・4日 総務委員会行政視察
- 5日 各派代表者会議
- 12～14日 経済建設委員会行政視察
- 13・14日 福祉教育委員会行政視察
- 18日 各派代表者会議
- 20日 ダイバーシティ推進検討特別委員会
- 21日 議会報告会運営会議
- 31日 議会報告会運営会議

11月

- 1日 議会報告会 (生涯学習センター・市役所本館)
- 2日 各派代表者会議、全議員説明会
- 4日 議員研修会
- 7日 議会報告会(市役所本館)
- 8日 全議員説明会 東部地区6市4町議会議長連絡会
- 10日 議会報告会(市役所本館)
- 12日 議会報告会 (防災研修室・生涯学習センター)
- 15日 各派代表者会議、議会運営委員会、ダイバーシティ推進検討特別委員会
- 22日～12月8日 11月定例会
- 22日 各派代表者会議、本会議(議案審議)、議会だより編集委員会
- 30日 一般質問

12月

- 1・2・5日 一般質問
- 1日 各派代表者会議、議会運営委員会
- 8日 本会議(議案審議)、各派代表者会議、議会だより編集委員会
- 15日 年末の交通安全県民運動街頭啓発
- 22日 議会報告会運営会議

# 視察報告



三島市が抱えるさまざまな課題を調査するため、委員会で先進地を訪問し、視察研修を行いました。

## 経済建設委員会 10/12～14

### 酒田駅前再開発事業 —山形県酒田市—

酒田駅前のジャスコ跡地に令和4年7月に完成した「交流拠点施設ミライニ」は、図書館、観光案内所、イベント広場、駐車場、バス停留所等の公共施設と、ホテル、レストラン、マンション等からなる複合施設。教育委員会が全体を所管し、指定管理者が管理を行う。館内で演奏会を開催するなど従来の枠にとらわれない自由な運営の図書館として、施設内のホテル、レストランや広場と連携するなど、さまざまな工夫をされていた。



空間を多目的に利用できるための工夫が今後の公共施設の参考にもなると感じました。



### 食文化創造都市推進事業 —山形県鶴岡市—

海、山、里の幸に恵まれ、だだちゃ豆など多くの在来作物があるなど豊かな食文化を生かして平成26年に国内初となるユネスコの食文化創造都市に認定。現在、令和元年から5年間を計画期間とする「鶴岡食文化創造都市推進プラン」を推進中で食文化の伝承・創造と共に産業振興にも力を入れ、食文化を生かした交流人口の拡大も図りつつ、食文化を柱にした地域づくりを進めている。料理人の育成、料理人と生産者との連携促進、フードツーリズムや交流イベント等、鶴岡ならではの政策が印象的。

### 中心市街地活性化基本計画 —山形県山形市—

中心市街地の大型店の撤退が相次ぐ中、現在第3期の中心市街地活性化基本計画に取り組んでいる。平成31年に中心市街地の将来像を描く中心市街地グランドデザインを策定し、3年後にこれを改訂し新テーマ「歩くほど幸せになるまち」のもとにさまざまなプロジェクトが進められている。ウォークアブルなまちづくりを目指す点、せせらぎを守り生かすまちづくりという点、さらには官民一体となった公共空間の整備・活用という点で、三島市のまちなかリノベーション計画とは多くの共通項を持っており、中長期的視野を持った将来ビジョンの重要性を示唆する事例であった。

# 先進地に学ぶ

## 福祉教育委員会 10/13・14

### 地域部活動推進事業 —埼玉県白岡市—

教員の負担軽減などを目的とし、学校の部活動の指導を外部の人材に委ねる地域部活動を、令和3年11月から市内の4校の中学校で始めている。地域部活動移行へのメリット・デメリットなどに関する見解や、生徒、保護者および教職員を対象とした実態調査アンケートの概要結果に基づく成果と今後の課題等、情報共有をした。

地域部活動を推進するために、「求められれば足を運んで説明する」市の担当課の姿勢が非常に印象的でした。関係者・関係団体それぞれの立場や思いを尊重し、丁寧に進めていくことが重要と考えます。



### 認知症対策 —神奈川県大和市—

平成28年4月に認知症に特化した業務を行う「人生100年推進課認知症施策推進係」を新設し、同年9月に「認知症1万人時代に備えるまちやまと」宣言を行った。また、令和3年9月には「大和市認知症1万人時代条例」を施行し、誰もが認知症の人に関わり、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるよう施策を推進している。

### 不登校特例校 —東京都八王子市—

病気や経済的な理由を除いた、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因などにより、登校しないまたは登校したくてもできない児童・生徒のために設立され、令和4年度で19年目を迎えた。学習指導要領に定められた内容を基本としつつも、児童・生徒の一人ひとりの実態に即し、柔軟な教育課程を小・中学部で編成し教育活動を推進しながら、明るく暖かく通いたくなる学校を目指している。



## 総務委員会 10/3・4

### 新庁舎建設 —愛知県あま市—

海拔0m前後の平坦な低地が広がり、巨大地震が発生した場合は津波等により被害を受ける可能性が高いため、新庁舎敷地の高上げや液状化に備えた地盤改良の工夫がされている。地下水位が比較的高い特性を活かし、地下水利用による空調システム導入の仕組みが特徴的である。議場については多目的に活用できるフラットな床面で、議場卓はすべて可動式であり、定数変更等によるレイアウト変更へも対応可能となっている。



地中熱利用の熱交換システムや、太陽光発電システムの利用、雑用水の備蓄等による災害時における給排水機能の確保など、防災拠点としても有効的であると感じました。



### 新庁舎建設 —静岡県島田市—

ユニバーサルデザインを取り入れ、事務机は可動式とし、パーソナルロッカーを採用するなど、将来の働き方の変化に柔軟に対応できるような工夫がされている。島田特有の西風を利用した自然換気を行い、春秋の冷暖房の削減を図っている。多目的トイレのほか、親子トイレや男女共用トイレなど、誰もが自分に合ったトイレを選択でき、性の多様性への配慮が感じられる。

壁面の窓から風を取り込む仕組みが面白い。大きな吹き抜けから外光を取り入れる工夫、地下に雨水利用のピットを備えるなど、環境への配慮がうかがえる。地元の工業高校作成の新庁舎模型が素晴らしい。

